

## 旧国立競技場に設置されていた記念作品等について

旧国立競技場に設置されていた記念作品等（25作品）は、主に建設当初から1964年の東京オリンピック開催までの間に、国立競技場を芸術作品で彩るという目的に賛同した寄附者の協力を得て設置されました。

いずれも、この地の記憶として先人から受け継ぎ、後世に引き継ぐ重要なレガシーとして新国立競技場においても有効活用されるよう、現在は移設または保管をしています。



完成間近の壁画「より高く」  
原画作者宮本三郎氏を囲んでの制作の  
現場  
(週刊文春 昭和39年9月7日号より)

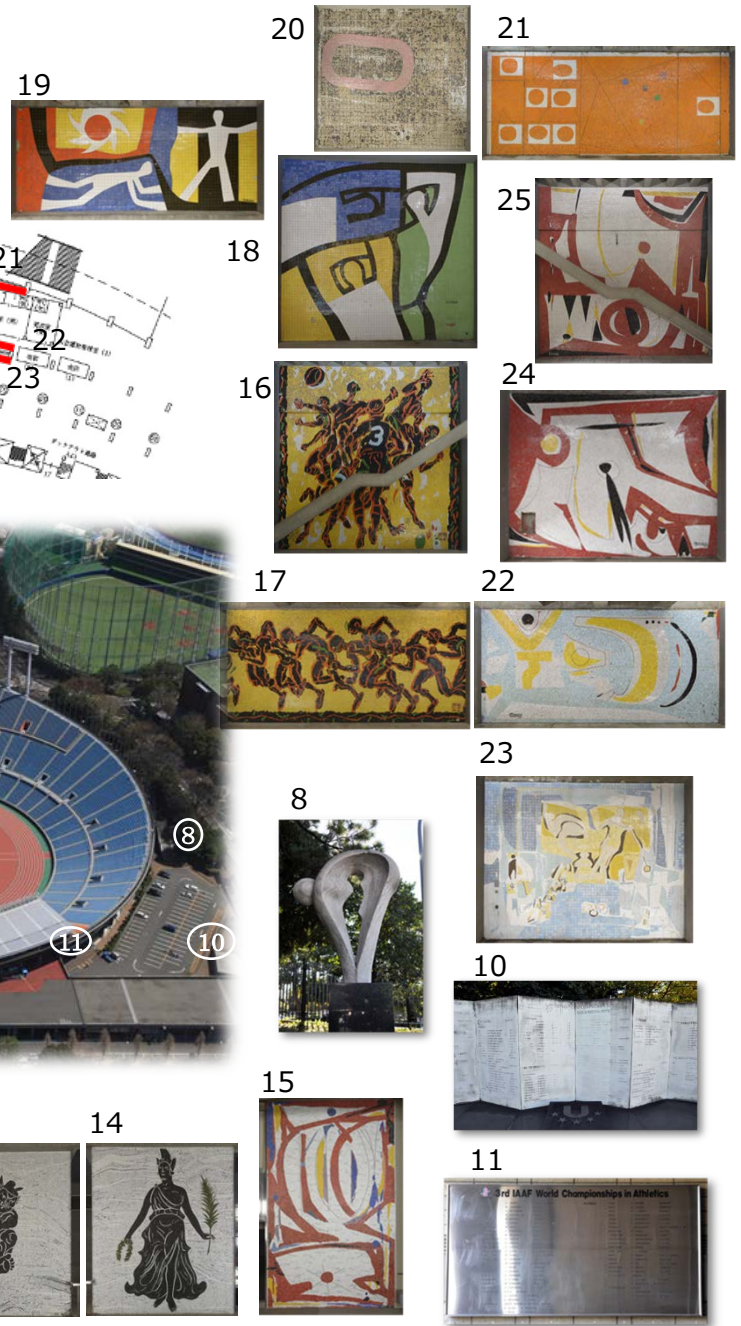
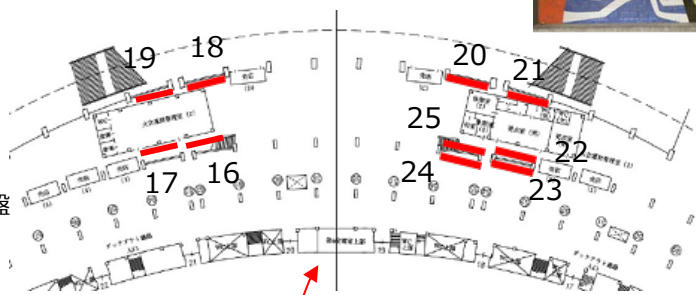


聖火台の取外し作業 平成26年10月10日実施  
現在は、石巻市に貸与中。



# 旧国立競技場記念作品等（25作品）配置図

1. 聖火台
2. 健康美
3. 青年像
4. 波
5. 円盤投げ像
6. 槍投げ像
7. 御者像
8. 無題
9. 東京オリンピック大会優勝者銘盤
10. 1976年ユニバーシアード東京大会優勝者銘盤
11. 1991年第3回世界陸上競技選手権大会優勝者銘盤
12. 出陣学徒の碑
13. 野見宿禰
14. ギリシャの女神
15. よろこび
16. より高く
17. より速く
18. 動態
19. 人と太陽
20. 勝利の場
21. 飛転
22. 勝利
23. 躍動
24. 躍進
25. 友愛



# 各作品の経歴



## 1. 聖火台

- ◆サイズ 高さ：2.1m 直径（最大）：2.1m 重量：推定4t
- ◆作者 鈴木万之助

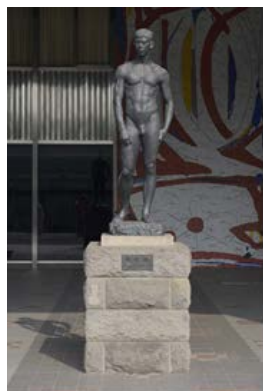
昭和33年、国立競技場を建設する際、聖火台の設計は、国立競技場の設計者角田栄ほか4名によって行われ、制作は川口内燃鑄造所が担当した。鑄造所は、美術鑄造の名工である鈴木万之助氏（当時68歳）に依頼した。

しかし、摂氏1400度の溶けた鑄鉄を鑄型に流し込む湯つぎ作業で鑄型は大破し、第1回の鑄造は失敗となる。万之助氏はその夜から8日目に他界する。

この仕事を引き継いだのが、その息子たちである鑄造師3兄弟である。三男文吾氏は亡くなるまでこの聖火台を毎年磨き上げに来場した。

1958年の設置当初は、南側スタンド上部へ設置されていたが(写真上)、東京オリンピックに向けて行われた拡張工事の際、増築されたバックスタンド(東側) 上部へ1963年に移設された(写真下)。

【写真提供：大成建設(株)】



## 2. 健康美

- ◆サイズ 高さ：3m
- ◆作者 北村西望

作者は30歳の時、「自分は天才ではないのだから人が5年でやることを自分は10年かけても、やらなければならないのだ」と語っている。

長崎にある「平和祈念像」は、彼の代表作のひとつである。



## 3. 青年像

- ◆サイズ 高さ：4m
- ◆作者 朝倉文夫

1956年の作品。

動物（特に猫）の作品も多いが、躍動感溢れるスポーツマンの人物像の作品も多く手掛けており、明治、大正、昭和を通じ、日本の彫塑界を先導した芸術家である。



#### 4. 波

- ◆サイズ 高さ：4m
- ◆作者 吉田三郎

大正から昭和にかけて、日本彫刻界の重鎮として活躍した作家。徹底した写実態度を示している。作風は、常に堅実で、男性像に傑作が多い。



#### 5. 円盤投げ像

- ◆サイズ 高さ：2.8m
- ◆作者 ミロン

1964年1月に「オリンピック1964年展」を西武百貨店で開催した時、ローマ国立博物館より取り寄せた実物の型抜き。円盤投げの像。9月4日に除幕式開催



#### 6. 槍投げ像

- ◆サイズ 高さ：3.4m
- ◆作者 雨宮治郎

大正・昭和に活躍した作家で、この「槍投げ像」は第15回帝展（1930年・昭和5年）の特選となった作品である。槍の鋒先は、国立競技場に向かっている。



#### 7. 御者像

- ◆サイズ 高さ：2.5m
- ◆作者 ファルピ・ビニョーリ

第11回オリンピックベルリン大会（1936年）で行われた芸術競技で金メダルを受賞した作品。古代オリンピックで行われていた馬車競技の一頭だて馬車を操る御者をモチーフとしている。



#### 8. 無題

- ◆サイズ 高さ：3m
- ◆作者 三井 泉

作者は1971年ミケランジェロ国際コンテスト金賞受賞をはじめ数々の賞を受賞している。大理石を使用し、水泳のグロービングスタートをオブジェ化したもので、くりぬかれた部分にも女子選手の立像が見える。



### 9. 東京オリンピック大会優勝者銘盤

◆サイズ 高さ：2m 幅：54m

1965年6月23日に除幕式開催  
徳島県特産の黒御影石（縦2m×横1m）を54枚並べて彫刻し、  
東京オリンピック大会優勝者をたたえている。



### 10. 1976年ユニバーシアード東京大会 優勝者銘盤

◆サイズ 高さ：2.5m 幅：6m

◆作者 中山克己

この記念碑は、各競技大会の優勝者をたたえ、  
優勝者名を刻印してあり、日本での大会を記念  
して屏風型をしている。



### 11. 1991年第3回世界陸上競技選手権大会 優勝者銘盤

◆サイズ 高さ：2.76m 幅：5.14m

第3回世界陸上で3種目に4つの世界記録誕生という  
成果を記念して作成された。  
男女44種目の金メダリスト名が刻まれ、翌年1992  
年3月25日に除幕式が行われた。



### 12. 出陣学徒の碑

◆サイズ 高さ：3m

昭和18年（1943年）10月2日特例公布に伴い、全  
国の大学、高等学校、高等専門学校の文科系学徒の  
徴兵猶予が停止され、約10万人の学徒が戦場へ赴く  
こととなった。

10月21日、元・明治神宮外苑競技場（現・国立競技  
場）では、東京周辺77校が参加して「出陣学徒壮行  
会」が折からの秋雨について挙行された。  
学徒出陣五十周年を迎えるにあたり、歴史的事実を  
伝え、永遠の平和を祈念するため建立。平成5年10  
月20日竣工



(正面)

1 3. 野見宿禰



(側面)



(正面)

1 4. ギリシャの女神



(側面)



1 5. よろこび

◆サイズ 高さ：4.3m 幅：4.1m  
◆作者 長谷川 路可

◆サイズ 高さ：4.3m 幅：3.7m  
◆作者 長谷川 路可

◆サイズ 高さ：6.2m 幅：3.6m  
◆作者 寺田 竹雄

<作者の言葉>

向かって右側の塔には、栄光を意味するギリシャの女神が橄欖（かんらん=オリーブと訳すことがあるが別種類）と月桂冠を持つ高さ4mの立像があり、「美の象徴」とした。

左側には、国技と呼ばれる相撲の元祖、野見宿禰（のみのすくね）で「力の象徴」とした。右側の像と同じ大きさである。

白と黒のモザイクをもって端的に表現し、白の部分には淡色の色ガラスを混入してそれぞれのニュアンスを試みた。

<作者の言葉>

玄関入口なので、明るくはあるが派手すぎないようにガラスモザイクを使用した。

寄贈者がカメラ会社なので、カメラのレンズの形をある程度取り入れてデザインした。



1 6. より高く

◆サイズ 高さ：7.9m 幅：7.8m  
◆作者 宮本 三郎



1 7. より速く

◆サイズ 高さ：3.7m 幅：7.8m  
◆作者 宮本 三郎

<作者の言葉>

昔からの、公共の建物を飾る壁画や彫刻は、大体にその建物の使用目的に添った主題で制作されて着ています。ここではやはりスポーツを主題としましたが、ただ小さな原図から拡大して施工されるモザイクの仕事だから、あまり困難を伴う細部分な手法は避けるようにした。

主にスポーツの持つ力感や速度間といったものを強調したいと考えました。



18. 動態

◆サイズ 高さ：7.9m 幅：8.3m  
◆作者 大沢 昌助



19. 人と太陽

◆サイズ 高さ：3.6m 幅：8.3m  
◆作者 大沢 昌助

<作者の言葉>

壁面は外部の光線をさえぎる裏面、場所が大きいので細かい仕上げは効果が無い。材料はタイルモザイクというのが作者に与えられた条件であった。暗い壁面のために明るい色のタイルを選んだ。細かい効果をさけて、大まかな構成にした。タイルの材料をなるべく生かすように、目地の線を通すようにした。他の人の作品と調子が狂わないように心を配った。



20. 勝利の場

◆サイズ 高さ：8.0m 幅：8.5m  
◆作者 脇田 和

<作者の言葉> 国立競技場は、若人達が集い技を競い合い勝利を得る場所として、スポーツのメッカとしていつまでも記念されるべきである。トラックの形と月桂冠をあしらい、記念碑としての壁画にした。



21. 飛転

◆サイズ 高さ：3.5m 幅：8.3m  
◆作者 脇田 和

<作者の言葉>

幾何学的な表現であるが、オリンピックを機会として日本の翼が強く、大きく羽ばたき、批点して、総てが好転するという意味をあらわしました。



## 22. 勝利

- ◆サイズ 高さ：3.7m 幅：7.8m
- ◆作者 寺田 竹雄

<作者の言葉>  
英語のVICTORYを取り入れ、勝利の喜びを示そうとした。



## 23. 躍動

- ◆サイズ 高さ：6.1m 幅：7.8m
- ◆作者 脇田 和

<作者の言葉>  
躍り動く二人、その間に月桂冠を頭に可愛い天使と世界を結ぶ国々の旗とともに、美と力の祭典をおこなっている。



## 24. 躍進

- ◆サイズ 高さ：6.2m 幅：7.8m
- ◆作者 寺田 竹雄



## 25. 友愛

- ◆サイズ 高さ：7.9m 幅：7.8m
- ◆作者 寺田 竹雄

<作者の言葉>  
各国又は国内のスポーツ競技者が集まるところだが、その集まりはあくまでも友愛がなくってはならない。  
テーマは場所がら、スポーツに関するものとし、その扱いは具体的なものより抽象的傾向のものを選ぶことにした。短期間の制作なので、施工者は美校出身のアルバイト学生を述べ二千人余りも動員して完成した。「躍進」は若人の躍進を連想しながらデザインしたものである。